

# 『湘南台 今と昔』

総合政策学部 2年 遠上春香

私は学校の最寄り駅である湘南台の都市計画とまちづくりの成果について調べた。湘南台は、ここ 20 年間で急速に開かれた街となった。私は、湘南台のここ 20 年間の大きな変化は SFC ができたことが直接関係していると考えている。SFC ができてから湘南台にはいろいろな施設ができ、中高大学生にとってもとても暮らしやすい場となった。実際に過去の写真などを見ても、ここ 20 年間での湘南台の変化は目まぐるしい。

まず、湘南台近辺のまちづくりに関してみていく。まちづくりとは、現存する社会問題を解決するため、広い観点をもって行政と住民が協働していきいきとした暮らしを追求し、都市施設や地域の合意形成によってつくっていく活動である。都市計画とは違って、法的な束縛はなく、住民がすごしやすい、生活しやすい街を協力してつくっていくものである。

図 1



図2



図1は、1990年頃、つまりSFCが建設される前の湘南台駅東口の風景で、図2が2007年の湘南台東口の風景である。見た感じでは、図2のほうが色合いがあり、道路も整備されていて、街が栄えている印象を受ける。図1はなんとなくさびれた町のように見える。中高生や大学

生が利用することが多くなった故、奥にはUFOキャッチャーやプリクラの機械が入ったゲームセンターができ、その隣には大学生が打ち上げで利用できるように居酒屋ができ、また、その隣にはゆっくりできる喫茶店などもできている。湘南台の利用者のニーズに合った施設が多く作られてきたことが明確にわかる。また、湘南台駅の西口にも、まさに中高大学生のためにできたと思われる施設が多い。たとえば、低コストで済むサイゼリヤや、バーミヤン、ガスト、マクドナルドなどの大人気で食事ができる場所、湘南台に住む人がすごしやすいようにできたと考えられるスーパーやコンビニなどである。湘南台は、利用者が急激に増えたのに合わせてまちづくりが早く進み、新しい施設もたくさんできた。現代の中高大学生が利用するだろう施設を考えてまちづくりをしていたと考えられる。そのほかにも、湘南台では、東京などではあまり見られない地域密着のイベントも多い。たとえば、毎月第3土曜日には「お楽しみ市」というイベントが開催され、誰でも場所代だけ払えば一日自分たちでフリーマーケットや屋台が持てる。このようなイベントがあることで、地域内でのコミュニケーションも豊富になるし、まちにも活気が出て、とても良いまちづくりの一環となる。しかし、湘南台のまちづくりにおいて、中高大学生をターゲットにしたまちづくりに重点を置きすぎていて、あまりにも駅周辺には飲食店が多い印象を受ける。もう少しバランスよく建設する施設を選んだほうがよかったのではないかと。したがって、お年寄り向けの施設がとても少ない。駅付近にはパチンコ屋や飲み屋が多いので、お年寄りの住民は、パチンコ屋は1日中ドアが開くたびに出る騒音や、夜遅くに飲み屋から酔っ払った大学生たちの大騒ぎなどで迷惑しているかもしれない。幅広い年齢層の人に住みやすいまちをつくるのは至難の業と考えられるが、湘南台のまちづくりにも改善点は多々あると思う。

図3



図4



図3は湘南台駅西口から西を見た1990年頃の写真であり、図4は湘南台駅西口から西を見た2007年の写真である。図4の2007年の写真では建築物の多くがオレンジ、ベージュなど色とりどりになっていて町全体が明るい印象を受ける。1990年の写真と比べると差は一目瞭然である。しかし、まち全体に統一感を持たせるために自然に育っていた木を切ってしまう。まちづくりは、授業内で習ったように、古都の周辺の歴史風土を守ったり、それぞれの町の歴史的な街並みを守ったり、市街地全体の風景、景観を整えるという性格を

持っている。この図3, 4の写真は景観を整えた代表的な例だろう。この性格のために平気で自然に育っている木を切ってしまうのだと思った。

次に、湘南台付近の都市計画についてみていく。都市計画とは、現存する社会問題を解決するため、または何らかの社会的価値を実現するため、都市計画法のもとで、さまざまな都市施設の配置や街割の計画や土地利用の規制をおこなう社会システムである。まちづくりとは違って、ただ住民のニーズを考えていきいきとした街を作るだけでなく、地区基盤施設や住宅、建築物、公共公益施設などの諸要素の相互関係を適切に保ちつつ街割を行うものである。

図5



図6



図5は、湘南台駅東口大通りから国道方面を見た1990年頃の写真であり、図6は、湘南台東口大通りから国道方面を見た2007年の写真である。図5ではあった木が図6では消えている。これは、交通の便をよりよくするためになくしたものであろう。この木がなくなったことにより、車道がより自由になった。しかし、景観の面から考えると、緑をなくしてしまったわけなので、全面的によい都市計画であるとは言えない。湘南台には、SFCなどの学校ができたことにより、人が集まるようになった。交通量も増えたので既存の交通では制御できなくなってしまった。したがって、交通に関して土地利用を考えて、都市計画を進めたと考えられる。その結果として、湘南台に道路が広くなり鉄道が通った。

湘南台の都市計画とまちづくりを学んで、特徴として開かれたまちを意識しているように感じられた。私は湘南台を毎日のように利用しているが、自分の地元と比較すると、道路がとても広く感じる。町全体がひろびろとしていて時間がゆっくり流れている気分になる。都市計画をする際に「開かれたまち」を意識して計画をしていたかは分からないが、今の湘南台はそのような印象が強い。また、湘南台は駅周辺は同じような店がとても多い。居酒屋は同じ系列のものがたくさんあり、どこの大学生の飲み会が重なっても対応できるようになっている。食事処も同じようなファミリーレストランが多く、パチンコ屋も多い。そのような建築物で湘南台駅周辺は栄えているように見えるが、少し駅を離れてみると道

の高低がはげしく、自転車で道路を走るのも一苦労である。このようなところからまだ整備しきれていないことがわかる。SFCができてから、湘南台から学校まで自転車で登校する人が増えたので、湘南台駅付近には駐輪場もできた。自転車で登校する人たちのためにも、あの急な坂は改善の余地があると考えられる。全体的に、湘南台は小中高大学生をターゲットとしたまちづくりになっているので、環境を考慮したうえで、どの年齢層にも喜ばれる街づくりを意識したほうがよいと思った。また、景観については昔の湘南台の味が全く残っていないので、歴史を感じられる要素をもっと取り入れてもよいと思う。昔からある緑を大切に、その緑を生かした街づくりを考えたいと思った。私が評価したいと思ったのは季節感を出したまちづくりである。湘南台駅構内には、その季節にそって12月には大きなクリスマスツリーが、七夕近くには地元の小学生の願い事が書かれた笹の葉が飾られる。このような伝統的行事を装飾で表していくのはとても良い習慣だと思う。湘南台にははっきりとした統一感が街並みからあまり見出せないで、地域密着や季節密着の湘南台の色をこれから伝統的に残して行って歴史がただよう街づくりを目指していけたらよいと感じた。SFCに通う4年間で、卒業するときどのくらい湘南台が変化するのか、とても楽しみだ。

#### 参考文献一覧

<http://f-machikyo.or.jp/gallery18.htm>

<http://f-machikyo.or.jp/gallery19.htm>

[http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/directory1\\_00030.shtml](http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/directory1_00030.shtml)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%83%BD%E5%B8%82%E8%A8%88%E7%94%BB>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%BE%E3%81%A1%E3%81%A5%E3%81%8F%E3%82%8A>